

マーケット概況（2024年8月）

8月の債券相場は、前月末のFOMCで9月利下げの確度が高まり米国金利が低下した流れを引き継ぎ、10年375回債は前月末比-0.5bpの1.050%で取引を開始した。10年375回債は一時1.055%を付けたが、米国の景気後退や中東情勢悪化への懸念が浮上するなか、2日発表の7月米国雇用統計の内容が市場予想を大きく下回ると世界的に株安・債券高の流れが加速した。5日には日経平均株価が前営業日比4,451円安と過去最大の下落幅を記録するとともに、債券先物は2円超の大幅高となり、10年375回債の利回りは4月2日以来の水準となる0.750%まで急低下した。しかし、急速に買われた反動から翌6日は売りが優勢となり、10年債入札の結果も不調に終わったことから債券相場は上げ幅を大幅に縮小した。特に8日の30年債入札への警戒感から超長期債は大きく売られたが、入札を無難に通過したことで下げ止まり、乱高下した相場も落ち着きを取り戻した。その後は、市場予想を上回る経済指標を受け米国の早期大幅利下げ観測が後退したことや国内の金利先高観を背景に月初の上げ幅を縮小していく展開となった。23日のジャクソンホール講演でパウエルFRB議長が9月FOMCでの利下げ開始を強く示唆したものの影響は限定的で、立て続けに行われた流動性供給入札が月末にかけては重しとなり、結局10年375回債は0.890%で取引を終えた。

<短国市場>

前月末の15bp利上げ後、初めて迎えた2日の3M1247回債入札は最高落札利回り0.1309%と担保ニーズが先行し前回は6.5bpの上昇に留まる堅調な結果だった。9日の3M1249回債から発行額が3,000億円の減額となったことや担保ニーズの根強さから0.090%台での堅調な決着が続いた。しかし、0.100%割れの水準では投資家の買いが続かず16日の3M1250回債は最高落札利回り0.1183%に上昇、19日の1Y1251回債は0.2536%と前月比7.5bp上昇する低調な結果となった。月末にかけては、9月に3Mが再度減額されることから投資家の玉確保姿勢が先行し23日の3M1252回債は0.10%台となり、ショートカバーで0.050%が取引された。30日の3M1253回債も0.1023%と順調な結果で、0.085%が取引され終えた。

<一般債市場>

8月の定例地方債は、5年債と10年債ともに前月比横ばいの国債カーブ対比+6.0bpで条件決定した。また、10年定例政保債についても前月比横ばいの国債カーブ対比+4.0bpの条件決定となり、10年地方債とのスプレッドは2bpを維持した。ただ、入札物の地方債・政保債は流れ気味の結果が続き波乱含みとなった。16日の社債買入オペは、前回より250億円減額の500億円となり、平均落札利回りが0.613%と過去最高を更新した。8月の事業債は季節要因に加えて絶対金利のボラティリティの高まりによる様子見姿勢から、前年同月比43%減の4,533億円にとどまった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#375	1.050(1日)	0.750(5日)	1.055(1日)	0.890(30日)
#374	1.035(1日)	0.735(5日)	1.035(1日)	0.870(30日)
#364	0.790(1日)	0.475(5日)	0.790(1日)	0.620(29日)
#170-#171(5Y)	0.670(1日)	0.360(5日)	0.675(1日)	0.495(30日)
#189(20Y)	1.820(1日)	1.530(5日)	1.820(1日)	1.710(30日)
#1242-#1248 TDB(6M)	0.120(5日)	0.095(16日)	0.140(19日)	0.100(26日)
#1246-#1253 TDB(3M)	0.130(2日)	0.050(23日)	0.130(2日)	0.085(30日)